

ニューヨーク・NPT再検討会議要請団レポート NO.1

今すぐ核兵器の廃絶を ヒロシマの心を世界に届けてきました

4月28日～5月8日の日程で、党市議団の中森辰一、中原ひろみ、村上あつ子、藤井とし子の4議員がNPT再検討会議原水協要請団に参加し、ニューヨークに行ってきました。各議員のレポートを2回に分けて掲載します。



米国内で被爆の実相を広げる努力を草の根から

日本共産党広島市議員 中森辰一

原爆写真ならべて署名活動—波紋広がる

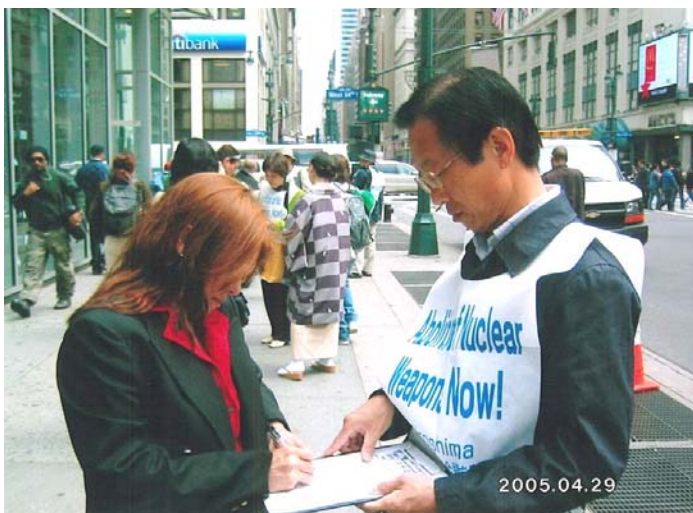
私と藤井議員はニューヨークに直行し、4月29日、30日とニューヨークの街頭で宣伝と核兵器廃絶署名を道行く人々に呼びかける活動に参加しました。全体で数百の署名が集まったようですが、なによりもニューヨークの街中で「核兵器廃絶を!」の横断幕を広げ、原爆被害の悲惨な写真を並べて署名を求める活動が、ニューヨークの人々や私たち以外の訪問者に波紋を広げたのではと感じました。署名に取り組んだ人の中には、同じ思いでアメリカ人が署名に応じてくれたことに感動があったと思います。

4万人パレードで核廃絶をアピール

5月1日の4万人のパレードと集会への参加は、ニューヨークに行った最大の目的であっただけに、天気にも恵まれたのは幸いでした。たくさんの横断幕や思い思いのアピールを身に付けたり持ったりの人々が、2時間かけて国連前からセントラルパークにいたる3.2キロをゆっくり行進しました。ニューヨークの大通りを全面通行止めにして通路いっぱい広がって

アピールするパレードに、沿道の人々の注目度は大きく、手を振って応える人々もたくさんいました。

集会は4時間にも渡って行われ、広島と長崎からは被爆者の方がそれぞれ訴えを行いました。広島と長崎の原水協がアピールする機会がなかったのは残念でした。



ニューヨークで核兵器廃絶署名を集める中森辰一議員

真剣に核廃絶ねがうアメリカの人たちと交流

私たちは3日間滞在を延長したおかげで、5月3日の平和市長会議と午後の平和団体との交流会に参加でき、4日の平和市長会議などのNPT会議場での演説や原水協によるデュアルテ議長への署名(約503万筆)伝達を見届けることができました。また、独自に現地の平和活動家を通じ、いくつかの団体との交流をおこないました。

4日夜は全米で1300の団体が結集してつくられた「平和と正義の連合」の本部で交流、5日はニュージャージー州のスプリングフィールドとエリザベスで地域活動をする人々と交流しました。みんな誠実で一人一人の市民の命と暮らしに関心を持ち、真剣に核兵器のない平和な世界を願って活動していることがうかがわれ、たいへん有意義な交流となり、ニューヨークに行き本当によかったというのが実感です。

どの会場でも、原爆投下について自分たちの国が行ったことを「お詫びする」ということが言われたのが印象的でした。また、核兵器廃絶の世論を広げるにはどうすればいいかという質問もあり、ヒロシマとナガサキの被爆の本当の姿を広めてほしい、そのことが二度とこのようなことを引き起こしてはならないという世論を広げる力になると答えました。

*

ブッシュ大統領の軍事戦略は、世界で孤立を深めながら核兵器廃絶の最大の障害となっているだけに、米国内の世論が極めて重要です。改めて、米国内で被爆の実相を広げる努力を現地の人々と連携し、草の根から広げていくことが重要だと感じました。

長崎投下の原爆がつけられた ハンフォード核施設見学（コロンビア川沿岸）

「ヒバクシャ」つくり続けるアメリカに憤り覚える

日本共産党広島市議員 村上あつ子

世界でもっとも原子炉が集中しているところ

ハンフォード核施設は、ワシントン州シアトル市から南東に約350キロのところであり、1942年からプルトニウム生産工場として稼働。同施設の門から40キロ先の原子炉で、長崎に投下された原子爆弾がつけられ、原子炉の増設は1963年まで続きました。

1600平方kmの広大な土地（広島県と岡山県を合わせた面積よりもっと広い）にいくつもの原子炉施設があり、これほど原子炉が集中しているのは世界中でもここだけ。現在は、除染作業をしています。

ガンに侵されながら反核運動すすめる住民たち

建設当時、農業を営んでいた約1200人の住民は、わずかな土地の補償だけでたった2週間で強制移住させられました。この地が選ばれたのは、広大な土地、少ない人口、原子炉運転に必要な冷却用水が豊富にあるためでした。

ハンフォードでは、施設ができたことで働き口ができたこと歓迎している住民も多く、反核運動を続けることは簡単ではありません。しかし、そんな中でも施設で働いた人を中心に、ガンに侵された人や風下の住民が政府に除染作業を求めたり、調査活動を続けています。



今は使われていないコロンビア川沿岸の核施設（船から撮影）

幼い子どもたちのお墓をたずねて

1949年、施設で故意に放射性物質の放出実験が行われました。ソ連の原爆開発の状況を知るためです。私たちが訪れた共同墓地には、1950～60年代に亡くなった子どもの無数のお墓がありました。なかには、胎児であろう子のお墓も。

施設のずさんな管理で、180個近いタンクのうち70数個のタンクから廃液が漏出する事故もあり、地下水汚染が大問題となっています。

コロンビア川沿岸には多くの植物があります。非営利団体「政府に説明責任を求めるプロジェクト」(GAP)は、根が川に達して水を得ているクワの木の枝葉や実から汚染の蓄積度を調べたり、川底の砂を採取して調査を続けています。

クワの実でジャムを作って政府に届けたところ、政府は一斉にクワの木を切ってしまう、その上岸に上がる事を禁止してしまいました。いま、上流に産卵しにくるサケへの汚染が新たな問題となっています。



1950～60年代に生まれ、乳幼児期に亡くなった子の共同墓地は5か所あります。

ハンフォードでも被曝者168人が認定裁判

1989年から、年間約20億ドル（約2400億円）の予算で、敷地内の除染作業がされています。しかし、ブッシュ政権はそれ以上のお金をかけて核兵器を開発しています。

コロンビア川を「死の川」にしないために、そして核兵器廃絶のために病気と闘いながら、除染作業が後退しないよう監視活動を続ける住民の気迫は、広島の実験地と共通のものを感じました。

ハンフォードでも168人の被曝者が認定裁判を起こしていることを聞きました。米国政府が、今なお「ヒバクシャ」をつくり続けていることに強い憤りを感じました。



5月1日、4万人パレードの到着地点、ニューヨーク・セントラルパークで。写真左から、藤井、村上、中原、中森の各議員。